



38

【埼玉】鴻巣市の「うえでい農園（植出大輝代表、33）は、新規就農希望者を支援する県独自の制度を利用し、2024年に就農した。約50坪の畑で40品目以上の有機野菜を年間を通して生産・販売している。

東京都の公務員だった植出さんは1年間の育休を取得したが、育休後は通勤に時間がかかり「妻に育児の負担をかけてしまった」。

植出さんは家庭菜園での野菜づくりによりがいを感じていたこともあり、農業なら理想の生活を実現できると考え、就農を決めた。

「子どもが安心して食べられるように有機農業がしたかった」という植出さんだが、経営が成り立つか不安だった。地域で有機農業を実践する生産者から話を聞き、有機農法は同県農業大学校で学び、農地は農業

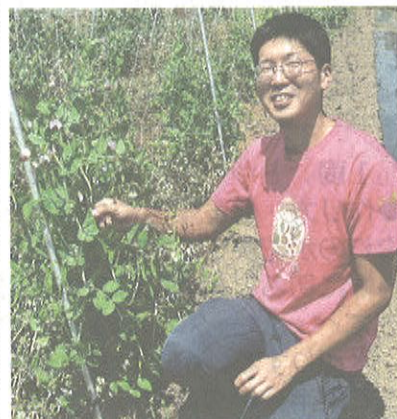
鴻巣市 植出 大輝さん

脱サラ就農し有機野菜づくり

理想の生活できると決断

委員会の支援を受けて確保した。

昨年は害虫や疫病で枯れてしまった品目もあったが「苦労すればするほど収穫できた達成感がある」という植出さん。先輩農業者や仲間らと情報交換して日々改善するほか、



キヌサヤエンドウを確認する植出さん

同市の有機野菜の生産者たちと協力してブランド化を進め、付加価値を高める工夫を凝らす。インスタグラムでは農園の様子を日々発信。その効果もあり、道の駅やインターネットでの売りが好まれている。また、妻が好きなカボチャを加工して商品化、通年で利益を伸ばすために販売を始めた。

「有機で育てた野菜は甘くて味が濃い」と植出さん。「有機栽培技術を確立して高品質の野菜を規模拡大しながら生産し、加工品の種類も増やし、経営を安定させたい」と話す。